

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 6月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500406		
法人名	医療法人社団さゆり会		
事業所名	グループホームさゆり		
所在地	広島県呉市音戸町早瀬1丁目36-6 (電話) 0823-56-2360		
自己評価作成日	平成30年4月26日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500406-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490500406-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年6月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>外出と入浴にこだわっています。 外出は、利用者様の体調、職員の人数、天候が良ければ、ドライブにお連れしています。洋服などの購入希望があれば、職員と一緒に買い物に出かけています。 入浴は、週に3回入浴できるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>平成17年7月に開設された事業所である。一丈五尺の櫓がしわる…♪「音戸の舟唄」が聞かれる音戸の瀬戸の一端にあり、対岸に江田島を望み、潮風薫る自然環境に恵まれている。地域で唯一の医療機関（内科）を運営母体として運営されている。この地で育った理事長（医師）の医療と介護の連携強化の願いを「すべての人の尊厳を大切にします」・「すべての人が両親を入所させたくなる施設を目指します」を基本理念に掲げ、その具体策として、管理者が中心となって、①安心の医療体制、②ニーズにあったサービス提供、③栄養管理された食事提供、④日々の生活にメリハリを、の4項目にこだわり、実践につなげている。運営母体も近隣にあり、同じ建屋に有料老人ホーム・訪問看護事業所も併設され、医師の往診、看護師の1日に3回の訪問など、地域密着の諸機能が活かされている。開設したばかりの全てが進行形で、地域の歴史と風土に即した理想の事業所創造に向かっての全職員のエネルギーが、利用者の元気に結びついている。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「すべての人の尊厳を大切にします。」「すべての人が両親を入所させたい施設を目指します。」を理念としています。個人のやりたいことを出来るだけ実現できるよう、援助していますし、地域で一番のグループホームだと評価されるよう、レクリエーションにも力を入れている。	医療法人の「利用者の尊厳」を基本理念に、職員全員で「自分の親だったらどう対応するか？」と、常に自分に問いかけるケアを心がけている。当地は、昔を偲ばせる漁師村の家族的交流の風習も残り、地元出身の職員が方言を交えて、利用者への家族的支援の理念が実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩や、とんど焼きなどの地域行事に参加しています。近隣の中学校に慰問の依頼をしており、次回の事業所の夏祭りは、地域に開かれたものを企画し、自治会、老人会、子ども会に参加を呼び掛けている。	昔のよき風習である相互扶助の自治会活動が盛んで、自然な形で地域の仲間として受け入れられている。自治会長も元地元中学校長で、職員の中に教える子も在籍し、地域住民の事業所見学会・中学生の職場体験、各種行事の地域開放等の実施も、円滑に展開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、自治会や民生委員に情報を発信しています。認知症についてや、介護保険について、お話しさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催し、事業所の報告を行っているが、地域の行事や観光名所などを教えていただいたり、高齢者と関わるうえでのアドバイスを頂いたりしている。	地域に開かれた事業所として、広く参加を呼びかけ、市や包括支援センター、地域の参加者で開催日程を決めた経緯がある。家族の参加が得られない現状で、今後の課題として、行事の際に参加を促す案内を検討している。家族に対しては、議事録を事業所内に掲示して公開報告としている。	現在、家族に会議議事録が送付されていないが、毎月末に各利用者の担当職員から家族宛に、日常生活状況等の報告書と手紙が送付されており、それに同封して送ることで、利用者の状況や事業所の活動状況の情報共有と、家族の参加促進に寄与願いたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	呉市担当者とは、書類の提出時や運営上の相談と指導を受けている。	呉市福祉課の担当者とは、問題や運営上の確認について、頻繁に電話で連絡をして関係性を築いている。また市からの研修の案内等については積極的に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>契約時に書面による説明を行っている。拘束にあたる事例はない。</p>	<p>職員研修会の実施と、関連の新聞記事があれば、すぐに内部で回覧して情報共有を図っている。今年度から、広島県シルバーサービス振興会のキャリアアップ研修会の受講を予定している。玄関は公道に面しているため、防犯もかねて、家族の了解を得て施錠している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>どのような事例が虐待にあたるのか、研修会を行っている。また、グレーゾーンの虐待や虐待にエスカレートしていく行為も学習している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修会を開いて、学習している。成年後見制度を利用している利用者様があり、実際のケースとして学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に書面による説明を行い、納得いただいてから、サインを頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱を設置している。窓口担当を決めて対応しています。ご意見や、苦情を対応したのち、運営推進会議を利用して、委員に意見やアドバイスをいただいている。</p>	<p>利用者、家族の意見・要望には全職員で対応し、管理者に報告する仕組みがある。特に重要な事柄は、文書化して市にも報告している。電話連絡時や家族の来訪時に担当職員が話を聞き、要望・意見を現場に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	不定期でミーティングを行い、意見交換を行っている。 また、個別での意見、相談も随時受けている。	定期的開催のミーティングや日々の意見・提案は、ケアマネジャーが中心となって聴きとり管理者に報告している。「日々の職員の楽しさが、利用者へのやさしさにつながる」との管理者の思いから、休暇等の希望には素早く対応され、備品購入の要望もオーバーテーブルやベランダのベンチ購入等の事例がある。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用契約書に提示しています。 また、就業規則や給与規定をいつでも読めるようにしています。 職員が働きやすい環境になるよう、個別での相談を受けている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会、勉強会、資格講習会などの参加要請や費用負担、参加しやすい勤務体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	呉市主催の集団指導研修、県介護福祉士会主催の研修に参加している。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	自宅訪問を含め、生活環境を確認すること、本人・家族等へのヒヤリング実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>自宅訪問を含め、生活環境を確認すること、本人・家族等へのヒヤリングを実施している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>自宅訪問を含め、生活環境を確認すること、本人・家族等へのヒヤリングを実施している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>食前、食後のテーブル拭きや、畑の作物の育て方、洗濯物たため、入浴後に着る服やタオルの準備を、職員と一緒に、お任せして行っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居説明の時に、家族と職員が一緒になって介護することが、本人の安心や、良いケアになることをご説明し、連携を取り、無理のない面会をお願いしている。 また、夏祭りなど大きな行事の時は、家族の参加を呼びかけ、事業所に関わる機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人、知人の面会を歓迎している。 再度の来所をお願い、約束してお別れしている。</p>	<p>何かあれば近隣にすぐ伝わる「人情味豊かな島内の村の住人」の表現がピッタリの地域性で、友人・知人の来訪が多い。食事時間以外はいつでも来訪を歓迎しており、来訪者には継続的な来訪を呼びかけている。新しい関係性の構築として、地元中学生の職場体験の実現などに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>フロア部で過ごす時間を設けて、交流して頂けるよう声を掛けたり、レクリエーションの流れを考えて行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>退所されたケースが無いが、退所後も、家族が気軽に立ち寄れるような雰囲気、環境をつくります。</p>		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>考えていることや、思いを、個別でじっくり聞いたり、普段の日常会話にヒントがあることがあるので、ヒントを聞き逃さないようにしている。意思疎通が難しい方は、家族とも相談しながら、検討し対応している。</p>	<p>利用者ごとの職員担当制のほか、全職員で各利用者の体調・表情に留意して、その内容や気づきは全て連絡ノートに記入し、急を要することは口頭で伝え合っている。特にケアマネジャーと職員は入浴介助の寛ぎの時を活用して想いを聞く機会としている。今後は利用者、家族へのアンケート実施を検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>訪問調査で本人からヒヤリングを行っている。家族、ケアマネジャー、かかりつけ医からヒヤリングを行っている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>訪問調査で本人からヒヤリングを行っている。家族、ケアマネジャーからヒヤリングを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケア会議や担当者会議を行い、本人、家族、いろいろな人から、いろいろな意見を集めて、より質の良いサービスが提供できるような、ケアプラン作りをしている。</p>	<p>ケア会議は、定期的開催し、本人・家族の意見を中心に、職員・医師・看護師など医療関係者が出席し、全員から意見を集約して介護計画に反映させている。今年度から、来訪の少ない家族には、全ての行事ごとに案内して来訪を促し、意見と要望を積極的に汲みとる体制強化の予定である。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>業務日誌やケース記録、連絡ノートを生かし、ケア会議で検討、集約しケアプランに反映させています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>集団行動を強要せず、お一人お一人の希望に沿うように、対応している。食事を今スグは食べたくない方には、時間をずらして対応したり、入浴を拒まれる方には時間や日にちをずらし、時間に余裕のあるケアをしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣施設を活用したり、観光施設へ外出し楽しめるサポートをしています。また、事業所が狭い島にあるため、友人、知人が多くおられ、来所をお願いして一時の楽しい時間を過ごして頂けるようサポートしています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診が週に1回あります。また、入居前にかかっていた専門医の受診も継続して行っており、事業所と医師との連携を密に取っています。</p>	<p>島の地形から、運営母体の医療機関がかかりつけ医としての位置づけが実情。歯科医の週1回の往診と、看護師の毎日の来訪など、24時間対応を可能としている。服薬は薬局で各人の朝昼晩用に小分けし、投薬ミス防止を図り、通院は家族の付添いが原則であるが、難しい場合は職員が付添っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>向井内科から訪問看護が午前午後、日に2回来られます。いつもと違う様子や、心配なことがあると、いつでも相談することができ、職員も、利用者も安心して過ごさせています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居中の介護サマリー、入院中の看護サマリーを情報交換したり、活用しています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に書面で家族に説明しています。また、医師から終末期に入ったと知らせがあれば、改めて本人、家族の意向を充分にきみ取れるよう、話し合える場を設けてサポートいたします。</p>	<p>終末期および看取りの事例は、現在は無いが、今後は本人・家族の意向に添って、他の医療機関および施設と連携した支援体制が構築されている。全職員は、これまで他施設での実体験を継ぎ、マニュアルも整備され、地域に特化した支援を可能としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルや、医師、看護師からアドバイスや指示を受けて、勉強会を行っています。AEDや救急セットなど、日ごろからどこに何があるか確認しています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署に協力依頼して、避難訓練を実施しています。</p>	<p>消防訓練は消防署の協力で年2回実施され、9月には夜間想定訓練を予定している。いまでも村社会の共助の風習が活かされ、近隣在住の自治会長に連絡すればすぐに協力が得られる体制にある。避難訓練等も隣接する法人内事業所との連携体制ができており、緊急時の食糧等の備蓄もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「慣れから言葉がけが雑になる」ことと「親しみを込めた言葉遣い」は、違うことを常に気にしながら、継続して指導しています。 また、職員間でも気軽に注意しあえる関係を作っています。	漁師村の歴史風土から、利用者・職員共に日々の会話は方言が主で、語感にきつさが現れるとのこと。当人同士には違和感がないが、外部の人には抵抗感があり、職員の言葉がけの指導に特に留意されている。プライバシー保護は、年1回研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	どんなに小さなことだと思ってしまうことでも、決定権は利用者にあることを常に考え、利用者が思いを話しやすい雰囲気をつくり、選びかねているなら、アドバイスしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	午後からのレクリエーションは、お誘いはしていますが、参加を強要はしていません。天気や体調などを考慮して、ドライブにしたり、散歩にしたり、屋内レクにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類は利用者を選んでいただいています。 定期的に訪問美容室を招き、散髪やカラー、パーマ、メイクでおしゃれを楽しんでおられます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	事業所の食事のほか、お弁当を持って公園に行ったり、散策した後にお店で食事をしたり、好きなものを選んでいただいています。環境が変わった食事は、摂取量も増えますが、楽しく会話しながら笑顔いっぱい嬉しくなります。	食材は専門業者に委託し、職員が調理・配膳している。利用者の要望、体調に合わせて時間の調整、きざみ食に対応している。食事時は、「音戸の舟唄」や童謡をBGMに、栄養管理された料理が食卓を賑わせている。おやつには、ホットケーキを焼いたり、かき氷をみんなで作るなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量と水分摂取量で栄養確認をしています。食事メニューは、専門業者による献立で、栄養価などの管理ができています。利用者に合わせて、食事形態を変え、安全に楽しく召し上がっていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後の口腔ケアを行っています。ご自分では難しい方にはお手伝いさせていただいています。週に1回、訪問歯科を依頼し、専門的な口腔ケアを行います。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄ペースをつかみ、失敗する回数を減らすよう努めています。日中と夜間との対応を変えてみたり、ポータブルトイレを使用することで安全に排泄することができています。	利用者の排泄ペースを記録して情報共有している。「センサーマットは利用者のためではない」との管理者の考えで使用せず、夜間は声掛けとおむつで対応している。ポータブルトイレを寝起きのふらつきによる転倒防止のため活用している。おむつから日中はパンツに改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医師、看護師から助言や指示、アドバイスを受けて学んでいます。排便の確認や水分摂取量、運動の促進をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	予定を組んで対応しています。しかし、体調や気分には十分配慮して行っています。	「毎日の入浴は快適である…！」との理事長のこだわりを実践し、一人ひとりお湯を入れ替え、浴室も職員3人の支援が可能な広さを確保している。入浴を寛ぎの場として、介助職員との会話も弾み、利用者の想いを聴くなど、体調観察の貴重な時間としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>食後や入浴後、運動後、体調などでゆっくりされたい方は、夜間の睡眠に影響が出ない範囲で、お部屋で休まれるよう、環境の整備や声を掛けています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>かかりつけ医、看護師、薬剤師と連携している。 服薬内容がかわったら、職員間で情報の共有をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>本人の趣味や嗜好をくみ取り、他の利用者も楽しめるよう工夫し対応しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気や体調によるが、散歩やドライブ、外食、地域行事、買い物に出かけています。</p>	<p>島の事業所だから可能な自然環境を活かした外出支援が特徴…。潮風を背に沿道の野イチゴの摘み、菜園では、そら豆・トウモロコシ・スイカなど季節の野菜を皆で世話をし、収穫している。ドライブは事業所の車で近隣の公園、音戸の島内一周など、季節ごとの社寺への参拝も支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金を所持されている方はご自分で、そうでない方は、事業所の立替えて買い物を楽しんでいます。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族や知人に連絡を取りたい方は、事業所の電話をお貸ししています。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は、季節感がある飾りつけをしています。トイレはこまめに様子を見て清潔な状態を保つようにしています。共用部は不快なおいが出来るだけしないよう、換気や芳香に気を付けています。</p>	<p>開放感を基本コンセプトに、管理者の想いを織り込み、視界を広く、利用者の活動の促進と職員の動線を生かした設計である。時折、ルンバ（掃除用ロボット）が動き回り、利用者の笑いを誘っている。庭にはバーベキューを楽しむ設備と島の天然環境を共用空間にうまく組み込んでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロア部では、いつもは食堂のテーブル席に座られていますが、ゆっくりされたい時は、ソファへ移られ、うたたねされたり、他の利用者とお話されて過ごされています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人が過ごしやすいよう、部屋には自宅で使用していたものや、思い出のあるものを持ち込んでいただいています。衣類は普段着ていたものをお持ちいただき、お好きな服を着ていただいています。季節の衣替えは、ご家族にお願いしています。</p>	<p>ベッドと空調設備を基本設備とし、その他は、利用者の想いのこもった調度品が持ち込まれ、自宅での生活の延長線上に配置されている。中には、カフェ風に…、とテーブルやイスを持ち込む人もあり、個々の生活を楽しんでいる。服装も、本人のおしゃれ感覚を活かした支援が見られる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>出来ることを取り上げてしまわず、安全に配慮して、日々の生活を楽しく送れるよう、職員みんなで情報を共有している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさゆり

作成日 平成30年7月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今回の水害を受けて、準備しておく物資と、長期間の断水による利用者様のストレス管理。	災害時に保存食や水、道具などに困らないようにし、利用者のストレス軽減。	保存食や水、必要な道具等の常備。災害時マニュアルの実際に即したものの改定。	3か月
2	2	地域資源は利用しているが、地域の方に、貢献したり、事業所を周知して頂けるイベントが行えていない。	夏祭りや運動会、研修会などを、地域の方も参加できる催しにする。	地域に開かれた催しを計画し、自治会、老人会、子供会に参加をお知らせする。	12か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。